



所属チーム／パッション・鳥取アローズ
出身地／鳥取県 年齢／21才
持ち点／2.0

10

立岡 ほたる

TATSUOKA Hotaru

U25のおかげで取り戻した自信

立岡 ほたる(2.0)

<U25代表につながった“憧れ”>

昨年10月、女子U25日本代表候補の一人に入ったという知らせを受けた立岡ほたるは、「まさか自分が？」と信じられない気持ちだったという。と同時に、やはり嬉しかった。

「何より嬉しかったのは、両親が泣いて喜んでくれたことでした」

もともとスポーツを得意としていた立岡は、小学1年の時から生活の中心はバドミントンだった。中学時代は県内でトップ10に入るほどのプレーヤーに成長し、高校もバドミントンのために選択した学校だった。

ところが、高校1年の時に病気を発症し、その後は何に対してもやる気が起きず、社会から追い出されてしまったような気がしていたという。

車いすバスケットボールは高校3年の時に少し体験した程度だった。もともと体育の授業でもバスケットはあまり得意ではなく、その時は車いすバスケットに興味を抱かなかった。

本格的に車いすバスケットを始めたのは、大学1年の時。周囲からの勧めで、その年の夏にあったジュニア講習会に行ったことがきっかけだった。

「同世代の女子選手が一人参加するからと言われて、その子に会いたいと思って行っただけ。そしたら、女子は私一人だけ。しかもあんなに厳しいなんて思いもよらなくて、一日目で両親に『帰りたい』って電話をしました」

そんな中、ある一人の選手のプレーに憧れを抱いた。「何がどうというのは、当時はわかりませんでした。ただただ『すごいな』と。リーダーシップもあって、あんなふうになりたい、と思ったんです」

いつかその選手と試合ができるようになりたい、という思いから一念発起。立岡は本格的に車いすバスケットを始め、練習に力を注いだ。その結果、U25の候補に入るほどの選手に成長した。

<苦手だと思っていたストロングポイント>

最初は日本代表になることがどういうことかはわからなかった。ただ、両親が喜んでくれた、そのことが嬉しいという気持ちだけだったという。

考えるきっかけとなったのは、山崎沢香ヘッドコーチの言葉だった。「自分のストロングポイントを見つけてアピールしてごう」その言葉に、立岡ははっとさせられた。

「自分の強みって何だろうって考えた時に、自分には何もなくて、どうしたらいいのかわからなくなってしまったんです」

悩んだ末に、指揮官の元を訪ねると、意外な答えが返ってきた。「山崎さんに『ほたるの強みは、ディフェンスだよ』と言われたんです。実はディフェンスが一番苦手だと思っていたので、驚きました」自分自身ではわからなかったストロングポイントを指揮官は見抜いていた。

ビデオで自分のプレーを振り返ってみると、確かにオフェンスよりもディフェンスの方がいきいきとプレーしているように感じられた。

「『あれ？自分ってこんなに楽しそうにディフェンスしているんだ』と思いました（笑）」

今、立岡には自信を持ってアピールできるストロングポイントがある。

「U25女子日本代表に選んでもらって、本当に良かったなと思っています。病気になってから何もなかった私ですが、こうやって自分の強みを見つけることができました。自分に自信が持てたし、すごく強くなれたと思います」

日本代表12人に選ばれたこと、そして世界選手権に出場できることは光栄なことだ。だが、それよりも自分自身が成長できたこと。立岡はそれが何より嬉しいと感じている。